



## 伝統絶やさぬ…二本松で十日市祭 開催

● 特定非営利活動法人まちづくりNPO新町なみえ

▶大勢の人々で賑わった「復興なみえ町十日市祭」



十日市祭会場に用意された  
寄せ書きに書き込む子供たち



メンバーによる地元の線量測定

浪江町および周辺地域の市民の絆を取り戻し故郷の復興を目指す。地元の新町商店会のメンバー三十人が十月「特定非営利活動法人まちづくりNPO新町なみえ（原田雄一理事長）」を立ち上げ（認可申請中）、二本松市の浪江町役場二本松第二事務所を拠点として、イベントの実施、地元の線量測定など様々な活動を精力的に展開している。十一月五日（土）、六日（日）の両日は約百三十年続く伝統の「十日市祭」を二本松駅前で「復興なみえ町十日市祭」として開催、県内外の避難先から訪れた浪江町民を始め多くの人出で賑わった。

# 自分たちの手で故郷浪江の復興

## 商店主らNPO設立



「まちづくりNPO新町なみえのメンバー設立総会にて」

戸の田植踊りなど盛り沢山のイベントも展開された。

県外に避難している町民を二次避難の際にお世話になつた付近の温泉地へ招き祭を楽しんでもらう企画も定員を大きく上回った。

会場では久しぶりの再会を懐かしむ浪江町民の姿がそこそこで見られた。田植踊りのイベントのため訪れた東京都立川市に避難して

いる渡部文江さん（56）は「今年は十日市祭を見られるとは思っていなかつたので驚きました」と感慨深げだった。

このほか「まちづくりNPO新町なみえ」は帰郷に備え「行政や報道に任せきり」にせず、独自に地元の放射線量を測定しデータ化する活動を行っている（メンバーのほとんどが除染業務講習会に参加済み）。また、孤立しがちな仮設住宅の独居老人への定期訪問を予定するなど、様々な活動に力を惜しまない。

原田理事長（62）は「私達は非日常の中にいるけれど心の中の浪江までは失いたくない」副理事長の神長倉豊隆さん（60）も「自分たちの町だから自分たちで取り戻したい」と言う。メンバーたちは「故郷再興」への希望を決して捨てない。

# 糸新聞

第2号

避難している人 みんなの情報紙



がんばろう福島!

糸づくり応援事業

福島県委託事業

<糸新聞編集室>  
〒963-8835 福島県郡山市小原2-19-19  
TEL024(944)0083

メールアドレス kizuna-fp@utsukushima-npo.jp  
<受託・発行>  
特定非営利活動法人 うつくしまNPOネットワーク  
発行日：毎月1日

<糸新聞（Web版）>  
<http://www.utsukushima-npo.jp/kizunashinbunweb/>

3面～2面

- 連載「再始動の軌跡」①  
飯館の市澤秀耕さん
- ふるさと糸情報ステーション開設  
南相馬の小林繁樹さん
- 糸づくりキャンドルナイト開催  
浪江の近藤学さん

II 今月の紙面 II

### 情報お寄せください

糸新聞編集室では、皆様からのお情報を待ちています。避難生活であきらめていたことが実現した、仮設住宅の一人暮らしのお年寄りを定期的に訪問している、避難先や別の地域で家業を再スタートさせた、イベント開催の予定、困りごとなど各種相談、どんな内容でも結構です。電話、郵便、メールでお寄せください。

**本紙連絡先**  
024(944)0083  
✉ (メール)  
kizuna-fp@utsukushima-npo.jp



### 本紙の配布場所募集

糸新聞編集室では、避難生活を送る方みなさんに本紙をお届けしたいと考えております。仮設住宅以外で生活されている方々の目につきやすい施設、企業、店舗等で本紙を置いていただける場所を募集しています。本紙は無料です。